

# キャプテンをどう語るのか ～高校生時の経験に着目して～

今宮 雄 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)  
指導教官 豊田 則成

キーワード：キャプテン，高校生，周囲からの指摘，見られている意識

## 1. 緒言

本研究では、『高校生時代のキャプテン経験をどう語るのか』というリサーチ・クエスチョン (Research Question:以下 RQ) を設定し、質的にアプローチし、発展継承可能な仮説的知見を導き出すことを目的とした。

## 2. 方法

インタビュー調査の対象となったインフォーマント (Informant: 情報提供者. 以下. Inf.) は、高校生時にキャプテンを務めた経験がある6名 (Inf.A~F) であった。インタビューマニュアルを基に、1人あたり30分から1時間程度 (1対1形式) の半構造化インタビューを実施した。

## 3. 結果と考察

本研究では、上記の RQ の下、質的にア

プローチした結果、「キャプテン経験者は、周囲からキャプテンとして承認される一方で、自分がなすべき役割を理解できず、周囲から指摘を受けるに至る。そのため周囲から見られている意識が芽生え、自分の役割を全うしようとするのが、人格の深まりを経験することにつながり、これらの歩みを意味づけるものとして語る」という仮説的知見を導き出した。(Fig.1 参照)

## 4. まとめ

キャプテン経験者は、周囲から指摘を受けることで、周囲から「見られている意識が芽生える」ことによって、キャプテンとして自覚が芽生え、自分の役割を全うすることで人格が深まっていく経験をするということが明らかとなった。

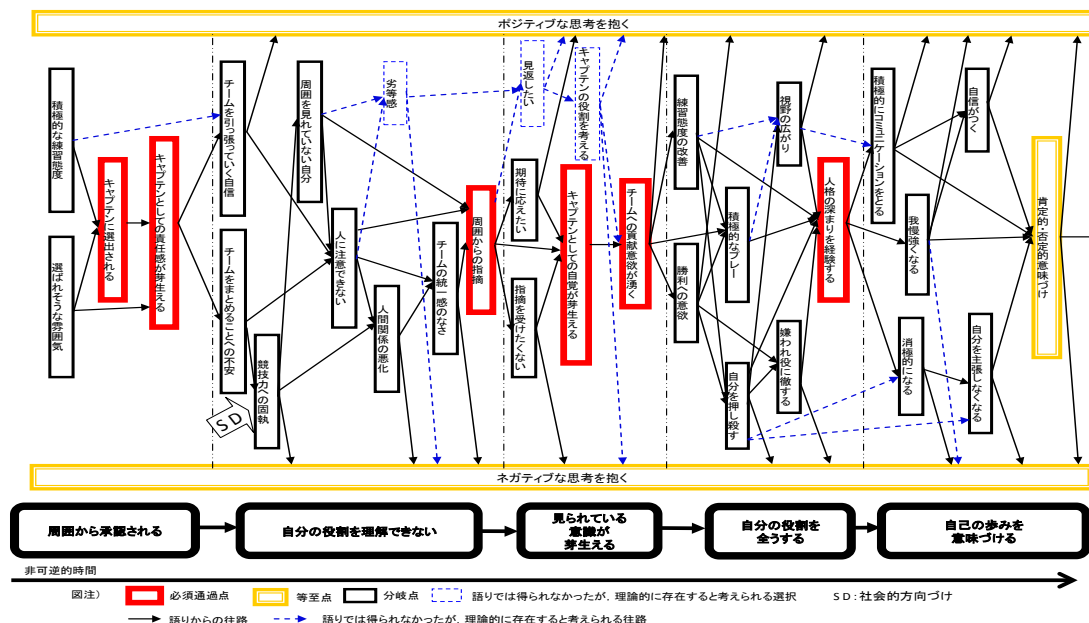


図14: キャプテン経験を意味づけるプロセス

